

日興ブラックロック・ ハイ・クオリティ・ アロケーション・ファンド

(為替ヘッジなし/年2回決算型)

【運用報告書(全体版)】

(2023年6月27日から2023年12月26日まで)

第 17 期

決算日 2023年12月26日

受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国の株式や債券などに投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/内外/資産複合
信託期間	2015年9月25日から2024年6月26日まで
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国の株式や債券などに投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド(クラスX2) 世界各国の株式や債券など マネー・マーケット・マザーファンド 円貨建ての短期公社債および短期金融商品
当ファンドの運用方法	■主として世界各国の株式や債券など、さまざまな資産への分散投資により信託財産の中長期的な成長を目指します。 ■実質的な運用は、マルチアセット運用に精通したブラックロック・インベストメント・マネジメント・エル・エル・シーが行います。 ■米ドル建ての組入れ外国投資信託証券に対し、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
組入制限	■外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	■年2回(原則として毎年6月および12月の26日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配を行います。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みません)等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

 三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1
<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ
お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976
受付時間:午前9時~午後5時(土、日、祝・休日を除く)

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

■最近5期の運用実績

決算期	基準価額			公社債 組入比率	投資信託 証券組入 比率	純資産 総額
	(分配落)	税込 分配金	期中 騰落率			
	円	円	%	%	%	百万円
13期(2021年12月27日)	10,000	169	1.7	0.0	83.8	3,299
14期(2022年6月27日)	9,997	0	△0.0	0.0	79.9	3,052
15期(2022年12月26日)	9,767	0	△2.3	0.0	82.6	3,007
16期(2023年6月26日)	10,000	1,151	14.2	0.0	79.7	2,935
17期(2023年12月26日)	10,000	350	3.5	0.0	81.0	3,111

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

■当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		公社債 組入比率	投資信託 証券組入 比率
		騰落率		
(期首) 2023年6月26日	円 10,000	% —	% 0.0	% 79.7
6月末	10,057	0.6	0.0	95.5
7月末	10,038	0.4	0.0	94.6
8月末	10,195	2.0	0.0	94.8
9月末	9,983	△0.2	0.0	95.2
10月末	9,807	△1.9	0.0	91.5
11月末	10,333	3.3	0.0	95.1
(期末) 2023年12月26日	10,350	3.5	0.0	81.0

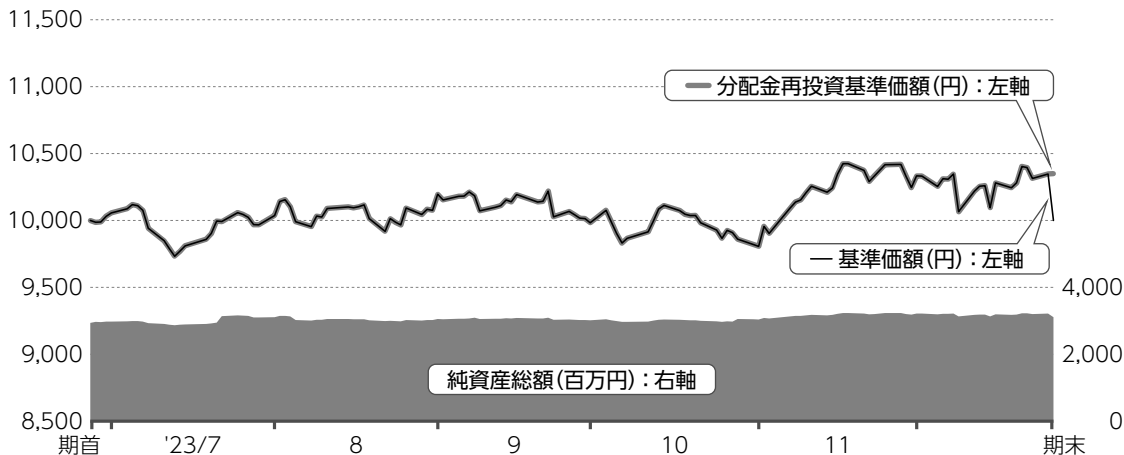
※期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

1 運用経過

基準価額等の推移について（2023年6月27日から2023年12月26日まで）

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期首	10,000円
期末	10,000円 (既払分配金350円(税引前))
騰落率	+3.5% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

基準価額の主な変動要因(2023年6月27日から2023年12月26日まで)

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国の株式や債券など、さまざまな資産へ分散投資を行いました。外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行っていません。なお、運用指図に関する権限の一部をブラックロック・ジャパン株式会社に委託しています。

上昇要因

- 株式市場が上昇したこと
- 金利が低下(債券価格が上昇)したこと

投資環境について（2023年6月27日から2023年12月26日まで）

世界の株式市場、債券市場は上昇しました。為替市場では米ドルが円に対して概ね横ばいとなりました。

株式市場

世界の株式市場は、上昇しました。F R B（米連邦準備制度理事会）をはじめとする主要国・地域の中央銀行の利上げは終盤に近いと考えられたことや、経済ファンダメンタルズ（基礎的条件）が底堅く景気見通しが改善したことから、株式市場は上昇しました。

債券市場

世界の債券市場は、インフレが鈍化傾向にあることや、F R Bによる利上げが終盤に近づいていること等が好感され、堅調に推移しました。

社債や新興国債券、証券化商品市場全般については、スプレッド（国債に対する上乗せ

金利）は縮小となりました。

為替市場

期初と比較して期末の円相場は、米ドルに対して概ね横ばいとなりました。

F R Bが金融引き締めを継続していた中、日本銀行はイールドカーブ・コントロール（長短金利操作）を調整したものの緩和的な金融緩和を継続する姿勢を示していました。そのため日米金利差が拡大し、米ドル・円は一時1米ドル150円台を突破しました。

しかしながら、期末にかけてはF R Bの利上げ終了が意識されて金利差は縮小し、米ドル・円は下落し、期初対比では概ね横ばいとなりました。

ポートフォリオについて（2023年6月27日から2023年12月26日まで）

当ファンド

「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）」の組入れを高位に保ちました。

ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）

市場環境の変化に事前予防的に対応する方針の下、株式、債券、現金などの各資産クラスの配分を機動的に変更しました。

株式については、期末にかけての市場の上昇、機動的なポジションの追加、保有していたオプションの価値上昇を通じて、配分を増加させました。米国では、フォワードP E R（予想株価収益率）に基づく、バリュエーション（投資価値評価）が魅力的な銘柄が多く残されていると考えられます。2024年後半にF R Bが金融緩和に転じる可能性があることも、株価の下支え要因になると考えられ、株式はオーバーウェイトとしています。

債券については配分を少し引き下げましたが、デュレーション（投資資金の平均回収期間：金利の変動による債券価格の感応度）については機動的にコントロールし期中には一時引き下げたものの、F R Bのスタンスがハト派（景気を重視する立場）的に転換する中で、期末にかけては利回りカーブの短中期ゾーンを中心に配分を拡大し、やや長期化しました。

商品ポートフォリオについては、リスク資産に対するヘッジ効果は薄れていると考えており、保有を低位で維持しました。

●株式

期初の62%程度から、米国経済は底堅さを維持していることに加え、インフレが鈍化し、中央銀行による利上げが終盤に近づいたと考えられる中で配分を高め、期末時点では64%程度としました。

●債券

期初の34%程度から、期末にかけて社債等の利益確定を行って配分を引き下げ、期末には32%程度としました。

●現金等

F R Bの利上げが終盤に近いと考える中、期初の3.2%から期末時点では3.3%と低位の保有比率を継続しました。

マネー・マーケット・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。

ベンチマークとの差異について（2023年6月27日から2023年12月26日まで）

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

分配金について（2023年6月27日から2023年12月26日まで）

（単位：円、1万口当たり、税引前）

項目	第17期
当期分配金	350
（対基準価額比率）	（3.38%）
当期の収益	347
当期の収益以外	2
翌期繰越分配対象額	443

期間の1万口当たりの分配金（税引前）は、基準価額水準等を勘案し、左記の通りいたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。
 ※「対基準価額比率」は、「当期分配金」（税引前）の期末基準価額（分配金（税引前）込み）に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

2 今後の運用方針

当ファンド

引き続き「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）」の組入れを高位に保ちます。

ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）

2024年については、景気は減速する可能性があるものの、上半期は比較的安定して推移すると見込まれます。ただし、マクロ経済

と市場のボラティリティが高まっている中で、先行き不透明感が強まり、資産間のリターンのはらつきも大きくなっており、ポートフォリオをアクティブに運用することが有効であると考えられ、資産配分を機動的に調整していきます。

こうした環境の中で、当ファンドでは株式への配分を増やし、ベンチマークに対してオーバーウェイトとしています。株式については、安定成長企業や優良企業を引き続き選好しており、これらの企業は景気減速局面でアウトパフォームする可能性があると考えています。米国のインフレ率が予想以上に鈍化

していることを受け、F R Bの追加利上げの可能性が低下しているため、金融引き締めによる景気後退リスクや失業リスクも低下しています。このことは、金融資産の下支え要因になると考えられます。

債券については、デュレーションのアンダーウェイト幅を引き続き縮小しており、米国のイールドカーブの短中期ゾーンに注目しています。米長期国債については、供給増が懸念されるため、慎重な姿勢を維持しています。当ファンドは、社債、証券化資産、および新興国のソブリン債（政府や政府機関、国際機関などが発行する債券）への配分を維持

しており、これらが債券配分の大部分を占めています。また、リスク許容度を踏まえ、デュレーションを含む様々な手段でポートフォリオ・ヘッジを行っており、デリバティブ（金融派生商品）や金関連証券を保有するとともに、一定のキャッシュ比率と為替ポジションを維持しています。

マネー・マーケット・マザーファンド

円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

3 お知らせ

約款変更について

該当事項はございません。

1万口当たりの費用明細（2023年6月27日から2023年12月26日まで）

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	104円	1.034%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数／年日数) 期中の平均基準価額は10,094円です。
（投信会社）	(58)	(0.577)	投信会社：ファンド運用の指図等の対価
（販売会社）	(44)	(0.440)	販売会社：交付運用報告書等各种資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(2)	(0.016)	受託会社：ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	-	-	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
（株式）	(-)	(-)	売買委託手数料：有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（先物・オプション）	(-)	(-)	
（投資信託証券）	(-)	(-)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数
（株式）	(-)	(-)	有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（公社債）	(-)	(-)	
（投資信託証券）	(-)	(-)	
(d) その他費用	1	0.007	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（保管費用）	(0)	(0.002)	保管費用：海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(0)	(0.003)	監査費用：監査法人に支払うファンドの監査費用
（その他）	(0)	(0.001)	その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	105	1.041	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

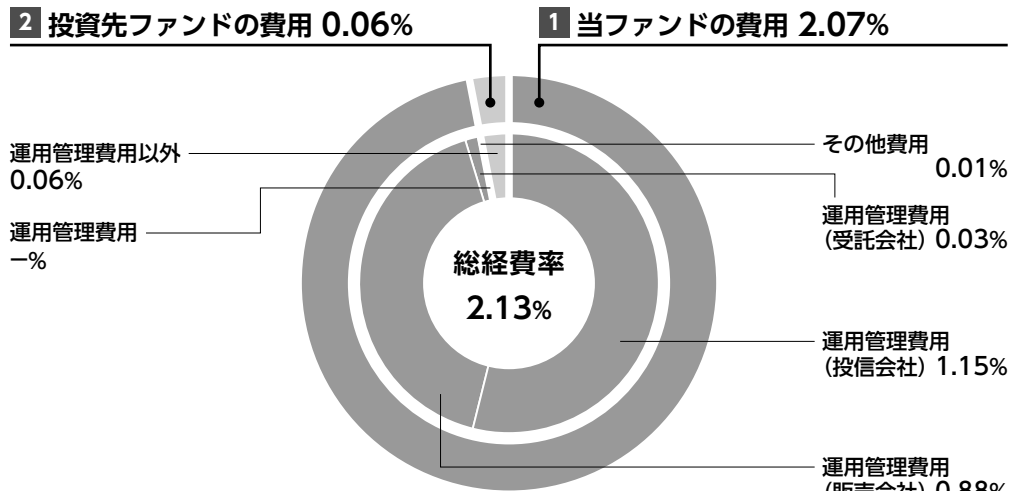
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



参考情報 総経費率(年率換算)



総経費率(1+2)	2.13%
1 当ファンドの費用の比率	2.07%
2 投資先ファンドの運用管理費用の比率	ー%
2 投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.06%

※ **1**の各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※ **2**の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の費用は、シェアクラスの経費率です。運用管理費用と運用管理費用以外の費用を、目論見書に記載している料率にもとづき区別しています。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。ただし、投資先ファンドでの運用管理費用は、当ファンドの運用委託報酬の中から負担しているため、開示すべき運用管理費用はありません。

※ **1**と**2**の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は2.13%です。

■ 当期中の売買及び取引の状況（2023年6月27日から2023年12月26日まで）

投資信託証券

			買 付		売 付	
			口 数	買 付 額	口 数	売 付 額
外国	アメリカ	ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）	□ 66,995	千アメリカ・ドル 6,044	□ 62,146	千アメリカ・ドル 5,791

※金額は受渡し代金。

■ 利害関係人との取引状況等（2023年6月27日から2023年12月26日まで）

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況
（2023年6月27日から2023年12月26日まで）

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細（2023年12月26日現在）

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた外貨建ファンドの明細

ファンド名	期首(前期末)		期 末		組入比率
	口 数	口 数	評 価 額		
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(ルクセンブルグ) ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）	□ 180,798.7	□ 185,648.09	千アメリカ・ドル 17,721	千円 2,521,304	% 81.0
合 計	180,798.7	185,648.09	—	2,521,304	81.0

※邦貨換算金額は、期末の時価を日本の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

(2) 親投資信託残高

種 類	期首(前期末)	期	末
	口 数	口 数	評 価 額
マネー・マーケット・マザーファンド	千口 1,187	千口 1,187	千円 1,186

※マネー・マーケット・マザーファンドの期末の受益権総口数は76,632,575口です。

■ 投資信託財産の構成

(2023年12月26日現在)

項 目	期	末
	評 価 額	比 率
投 資 証 券	千円 2,521,304	% 77.4
マネー・マーケット・マザーファンド	1,186	0.0
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	735,844	22.6
投 資 信 託 財 産 総 額	3,258,334	100.0

※期末における外貨建資産(2,523,211千円)の投資信託財産総額(3,258,334千円)に対する比率は77.4%です。

※外貨建資産は、期末の時価を日本の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは、1
アメリカ・ドル=142.27円です。

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

（2023年12月26日現在）

項 目	期 末
(A) 資 産	3, 258, 334, 991円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	735, 844, 724
投 資 証 券 (評 価 額)	2, 521, 304, 198
マ ネ ー ・ マ ー ケ ッ ト ・	
マ ザ ー フ ァ ン ド (評 価 額)	1, 186, 069
(B) 負 債	147, 285, 588
未 払 収 益 分 配 金	108, 882, 383
未 払 解 約 金	6, 529, 580
未 払 信 託 報 酬	31, 768, 338
そ の 他 未 払 費 用	105, 287
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	3, 111, 049, 403
元 本	3, 110, 925, 238
次 期 繰 越 損 益 金	124, 165
(D) 受 益 権 総 口 数	3, 110, 925, 238口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (C / D)	10, 000円

※当期における期首元本額2,935,670,049円、期中追加設定元本額419,050,395円、期中一部解約元本額243,795,206円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 分配金のお知らせ

1 万 口 当 た り 分 配 金 (税 引 前)	当 期
	350円

※分配金は、分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は全額「普通分配金」となり課税されます。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合は下回る部分が「元本払戻金（特別分配金）」となり非課税、残りの部分が「普通分配金」となります。

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

■ 損益の状況

（自2023年6月27日 至2023年12月26日）

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	472, 463円
受 取 利 息	525, 378
支 払 利 息	△ 52, 915
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	139, 475, 459
売 買 損 益	172, 651, 609
売 買 損 益	△ 33, 176, 150
(C) 信 託 報 酬 等	△ 31, 979, 149
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	107, 968, 773
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	40, 570, 409
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 39, 532, 634
(配 当 等 相 当 額)	(98, 237, 594)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△137, 770, 228)
(G) 合 計 (D + E + F)	109, 006, 548
(H) 収 益 分 配 金	△108, 882, 383
次 期 繰 越 損 益 金 (G + H)	124, 165
追 加 信 託 差 損 益 金	△ 39, 532, 634
(配 当 等 相 当 額)	(98, 237, 618)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△137, 770, 252)
分 配 準 備 積 立 金	39, 656, 799

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
※株式投信の信託報酬等には消費税等相当額が含まれており、公社債投信には内訳の一部に消費税等相当額が含まれています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※投資信託財産の運用の指図に係る権限の全部または一部を委託するために要する費用として、信託報酬の中から支弁している額は11,863,736円です。

※分配金の計算過程は以下の通りです。

	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	366, 494円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	107, 602, 279
(c) 収益調整金	98, 237, 618
(d) 分配準備積立金	40, 570, 409
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	246, 776, 800
1 万 口 当 た り 当 期 分 配 対 象 額	793. 26
(f) 分配金	108, 882, 383
1 万 口 当 た り 分 配 金	350

■ 組入れ投資信託証券の内容

投資信託証券の概要

ファンド名	ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）
形態	ルクセンブルグ籍会社型投資信託（米ドル建て）
主要投資対象	世界各国の株式や債券など
運用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● トータル・リターンを最大化することを目指します。 ● ファンドは、世界の株式、債券および短期証券に投資します。通常の市況では、純資産の70%以上を国や企業が発行する有価証券に投資します。 ● ファンドは、割安と判断される有価証券へ投資します。ファンドは、小規模企業および新興国の成長企業の株式に、また債券の投資部分においてはハイ・イールド債券にも投資することができます。 ● 通貨エクスポージャーについては柔軟に運用します。
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> ● 有価証券の空売りは行いません。 ● 純資産総額の10%を超える借入れは行いません。 ● 同一発行体の有価証券等への投資割合は、純資産総額の10%以内とします。 ● 非流動性資産への投資割合は、純資産総額の10%以下とします。
分配方針	分配を行いません。
運用管理費用	<p>運用報酬はありません。</p> <p>※管理および保管に要する費用などがかかりますが、これらはファンドの運用状況等により変動するものであり、事前に料率等を示すことができません。</p>
その他の費用	<p>ルクセンブルグの年次税（年0.01%）、ファンドの設立費用、取引関連費用、法的費用、会計・監査および税務上の費用ならびにその他の費用を負担します。</p> <p>これらは、ファンドの運営状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。</p>
申込手数料	ありません。
スイング・プライス	ファンドの買付け、売却がポートフォリオに重要な影響を与えられとされる場合、予想される取引スプレッド、コスト、その他の要因を考慮して、その売買価格が調整されることがあります。
投資顧問会社	ブラックロック・インベストメント・マネジメント・エル・エル・シー
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。

以下には、「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）」をシェアクラスとして含む「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド」の情報を委託会社において抜粋、要約して翻訳したものを記載しています。

■ 損益及び純資産変動計算書(2021年9月1日から2022年8月31日まで)

(単位：米ドル)

期首純資産	18,768,461,196
収益	
受取銀行利息	406,105
債券利息、源泉税控除後	112,866,334
スワップ利息	28,570,292
差金決済取引（金利）	53,100
短期金融市場預託金利息	52,976
集団投資スキーム収益（源泉税控除後）	1,150,568
配当金（源泉税控除後）	165,620,430
差金決済取引（配当）（源泉税控除後）	13,998
有価証券貸付収益	2,366,590
管理報酬リベート	71,764
その他払い戻し	62,916
収益合計	311,235,073
費用	
スワップ利息	11,066,220
差金決済取引（配当）源泉税控除後	1,927,089
年間サービス料	31,862,003
貸付委託費用	117,105
保管および預託報酬	2,164,905
販売報酬	15,231,194
税金	7,184,555
管理報酬	210,652,502
費用合計	280,205,573
純損益	31,029,500
以下に係る実現純利益／（損失）：	
投資有価証券	566,315,741
TBA証券取引契約	(3,163,067)
差金決済取引	37,430,485
上場先物取引	110,580,444
オプション／スワップション契約	39,134,606
スワップ取引	33,508,814
為替先渡取引	(762,326,456)
その他の取引に係る外国通貨	32,980,022
当期実現純損益	54,460,589

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（為替ヘッジなし／年2回決算型）

以下に係る未実現評価益／（損失）の純変動額：

投資有価証券	(3,320,399,957)
TBA証券取引契約	(2,139,296)
差金決済取引	4,332,461
上場先物取引	26,509,611
オプション／スワップション契約	(44,087,563)
スワップ取引	(40,140,602)
為替先渡取引	(111,673,560)
その他の取引に係る外国通貨	(465,435)
当期末実現評価損益の純変動	(3,488,064,341)
運用による純資産の増減	(3,402,574,252)
資本の変動	
投資証券発行による正味受取額	3,249,295,034
投資証券買戻しによる正味支払額	(3,508,196,590)
資本の変動による純資産の増減	(258,901,556)
配当金宣言額	(10,173,670)
期末純資産	15,096,811,718

■ 組入上位銘柄 (基準日：2022年8月31日)

組入銘柄	組入比率
TREASURY NOTE 2.75 04/30/2027	5.9%
TREASURY NOTE 3.25 08/31/2024	2.6%
MICROSOFT CORP	1.7%
APPLE INC	1.7%
ALPHABET INC CLASS C	1.3%
TREASURY (CPI) NOTE 0.5 04/15/2024	1.3%
AUSTRALIA (COMMONWEALTH OF) 1 11/21/2031	1.2%
AMAZON COM INC	1.1%
UMBS 30YR TBA (REG A)	1.0%
CONOCOPHILLIPS	0.9%

※比率は純資産総額に対する割合

マネー・マーケット・マザーファンド

第12期 (2022年3月2日から2023年3月1日まで)

信託期間	無期限 (設定日: 2011年5月31日)
運用方針	主として、円貨建の短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

■ 最近5期の運用実績

決算期	基準価額		公社債 組入比率	純資産 総額
		期中 騰落率		
	円	%	%	百万円
8期 (2019年3月1日)	10,019	△0.1	74.1	89
9期 (2020年3月2日)	10,013	△0.1	80.6	77
10期 (2021年3月1日)	10,002	△0.1	75.9	76
11期 (2022年3月1日)	9,994	△0.1	76.0	76
12期 (2023年3月1日)	9,991	△0.0	74.7	76

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

■ 当期中の基準価額と市況等の推移

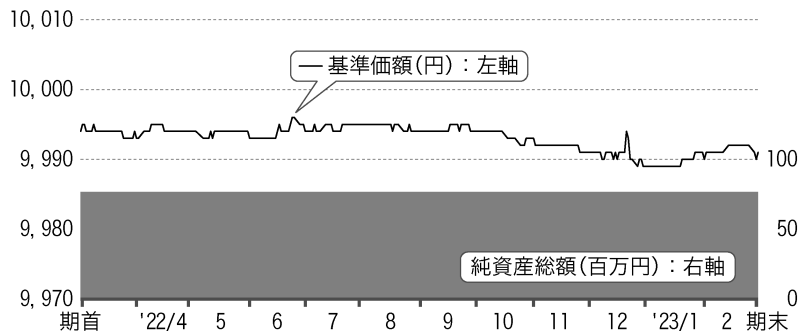
年月日	基準価額		公社債 組入比率
		騰落率	
(期首) 2022年3月1日	円 9,994	% -	% 76.0
3月末	9,993	△0.0	76.1
4月末	9,994	0.0	76.0
5月末	9,993	△0.0	74.8
6月末	9,994	0.0	74.8
7月末	9,995	0.0	74.8
8月末	9,994	0.0	74.7
9月末	9,994	0.0	74.8
10月末	9,993	△0.0	74.8
11月末	9,991	△0.0	74.7
12月末	9,989	△0.1	74.8
2023年1月末	9,990	△0.0	74.8
2月末	9,990	△0.0	74.7
(期末) 2023年3月1日	9,991	△0.0	74.7

※騰落率は期首比です。

1 運用経過

▶ 基準価額等の推移について (2022年3月2日から2023年3月1日まで)

基準価額等の推移



期首	9,994円
期末	9,991円
騰落率	-0.0%

▶ 基準価額の変動要因 (2022年3月2日から2023年3月1日まで)

当ファンドは、円建ての公社債および短期金融商品などへ投資しました。

下落要因

・日銀によるマイナス金利政策が継続され、主要投資対象である短期公社債や短期金融商品におけるマイナス利回りが続いたこと

▶ 投資環境について (2022年3月2日から2023年3月1日まで)

短期金利は低下しました。

世界的にインフレが高止まりを続けたことや、欧米中央銀行による大幅な利上げの継続を背景に円安が進行したことから、国内でも物価上昇率が拡大し、CPIコア（生鮮食品除く消費者物価指数）は前年比+4%台まで上昇しました。しかし、日銀はコストプッシュ型の物価上昇は持続的でないとの見方から、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」政策を維持し、日銀当座預金の一部へのマイナス金利付利を継続しました。

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、年末越え運用ニーズの強まりから一時的に大きく低下する局面もありましたが、日銀が需給動向を勘案し、短期国債の買入れ額を調整したことから、期を通じて概ねレンジ推移となりました。

▶ ポートフォリオについて (2022年3月2日から2023年3月1日まで)

短期金利は低位での推移が継続するとの見通しの下、残存0年から1年3ヵ月までの円建て公社債および短期金融商品で構築したポートフォリオを維持しました。また、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮しながら、短期公社債の組入れを行いました。

▶ ベンチマークとの差異について (2022年3月2日から2023年3月1日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

② 今後の運用方針

商品市況の高騰や為替の円安を背景に、当面は物価上昇率の高止まりが続きますが、日銀はコストプッシュ型の物価上昇は持続的でないとの見方を維持し、マイナス金利政策を継続する見込みです。従って、短期国債利回りやコールローン（金融機関同士のごく短期の資金の貸借）翌日物金利など、主要投資対象である短期公社債および短期金融商品の利回りは、引き続きマイナス圏の推移を想定します。

残存0年から1年3ヵ月までの公社債や短期金融商品で利回りのマイナス幅が小さい投資対象を選定し、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮して運用を行います。

■ 1万口当たりの費用明細(2022年3月2日から2023年3月1日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) その他費用 (その他)	1円 (1)	0.005% (0.005)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	1	0.005	

期中の平均基準価額は9,993円です。

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

■ 当期中の売買及び取引の状況(2022年3月2日から2023年3月1日まで)

公社債

		買付額	売付額
国内		千円	千円
	国債証券	14,088	—
	特殊債証券	43,359	—
			(58,000)

※金額は受渡し代金。(経過利子分は含まれておりません。)

※()内は償還等による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

■ 利害関係人との取引状況等(2022年3月2日から2023年3月1日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況
(2022年3月2日から2023年3月1日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細 (2023年3月1日現在)

公社債

A 債券種類別開示

国内(邦貨建)公社債

区 分	期				末		
	額 面 金 額	評 価 額	組入比率	うちBB格以下 組 入 比 率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
国 債 証 券	14,000 (-)	14,077 (-)	18.4 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	18.4 (-)
特 殊 債 券 (除く金融債券)	43,000 (43,000)	43,129 (43,129)	56.3 (56.3)	- (-)	- (-)	- (-)	56.3 (56.3)
合 計	57,000 (43,000)	57,206 (43,129)	74.7 (56.3)	- (-)	- (-)	- (-)	74.7 (56.3)

※()内は非上場債で内書きです。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

B 個別銘柄開示

国内(邦貨建)公社債

種 類	銘 柄	期 末			
		利 率	額 面 金 額	評 価 額	償還年月日
国 債 証 券	332 10年国債	%	千円	千円	
		0.6000	14,000	14,077	2023/12/20
	小 計	-	14,000	14,077	-
特 殊 債 券 (除く金融債券)	189 政保道路機構	0.5410	14,000	14,013	2023/04/28
	2 政保新関西空港	0.8820	14,000	14,044	2023/06/27
	200 政保道路機構	0.8010	15,000	15,071	2023/09/29
	小 計	-	43,000	43,129	-
	合 計	-	57,000	57,206	-

■ 投資信託財産の構成

(2023年3月1日現在)

項 目	期	末
	評 価 額	比 率
公 社 債	千円 57,206	% 74.7
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	19,355	25.3
投 資 信 託 財 産 総 額	76,561	100.0

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2023年3月1日現在)

項 目	期 末
(A) 資 産	76,561,741円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	19,305,618
公 社 債 (評 価 額)	57,206,522
未 収 利 息	47,530
前 払 費 用	2,071
(B) 負 債	300
そ の 他 未 払 費 用	300
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	76,561,441
元 本	76,632,575
次 期 繰 越 損 益 金	△ 71,134
(D) 受 益 権 総 口 数	76,632,575口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (C / D)	9,991円

※当期における期首元本額76,632,575円、期中追加設定元本額0円、期中一部解約元本額0円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※期末における元本の内訳は以下の通りです。

高成長インド・中型株式ファンド	17,711,132円
アジア好利回りリート・ファンド	99,971円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド (為替ヘッジあり/年1回決算型)	7,742,960円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド (為替ヘッジなし/年1回決算型)	1,337,053円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド (為替ヘッジあり/3カ月決算型)	4,909,194円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド (為替ヘッジなし/3カ月決算型)	1,456,790円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (為替ヘッジなし)	14,208,735円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (限定為替ヘッジ)	1,237,272円
三井住友・ニュー・アジア・ファンド	369,177円
アジア好利回りリート・ファンド (年1回決算型)	997円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (為替ヘッジなし/年2回決算型)	1,187,376円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (限定為替ヘッジ/年2回決算型)	389,132円
日興エドモン・ドゥ・ロスチャイルド・グローバルCBファンド (為替ヘッジあり)	289,352円
日興エドモン・ドゥ・ロスチャイルド・グローバルCBファンド (為替ヘッジなし)	419,066円
グローバル自動運転関連株式ファンド (為替ヘッジあり)	4,140,881円
グローバル自動運転関連株式ファンド (為替ヘッジなし)	11,065,647円
グローイング・フロンティア株式ファンド	2,185,185円
高成長インド・中型株式ファンド (年1回決算型)	7,882,655円

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ お知らせ

<約款変更について>

該当事項はございません。

■ 損益の状況

(自2022年3月2日 至2023年3月1日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	414,167円
受 取 利 息	422,396
支 払 利 息	△ 8,229
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△434,550
売	△434,550
買	△434,550
(C) そ の 他 費 用 等	△ 4,028
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	△ 24,411
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 46,723
(F) 合 計 (D + E)	△ 71,134
次 期 繰 越 損 益 金 (F)	△ 71,134

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。